

非主食用米（飼料用米等）に係る普及指導活動手法

都道府県名：鹿児島県

普及指導センター名：南薩地域振興局農林水産部
指宿支所農林普及課

【地域の概要及び取組の背景】

- ・指宿市では、指宿市開闢水田受委託組合を核としたオペレーター型の集落営農を開闢地区で育成することを目標として掲げられている。しかし、受益戸数864戸の殆どが飯米農家であり、受委託や農地の流動化は進みにくい状況にある。
- ・開闢地区では基盤整備を実施しており、整備後の農地の有効利用を図るため、担い手農家の育成に視点を置いた農地集積活動を推進していく必要がある。
- ・基盤整備後の転作田では、粗飼料確保のため畜産農家により農地の集積が進められ、ソルゴー等の飼料作物が栽培されている。しかし、冠水による生育不良や地権者に中には「飼料を栽培されると農地が痩せる」と意見をもった人も多く、畜産農家による農地の集積は頭打ちの状況にある。このような状況の中、地区の畜産農家からは2回刈りの可能な飼料用イネの品種選定や栽培技術確立を望まれていた。
- ・そのため、飼料用イネの技術確立に取り組み、基盤整備後の水田の高度活用と耕畜農家双方にメリットを見いだし、農地集積の手段として活用することで、今後の開闢地区の水田営農確立と担い手農家の育成を図るため取り組んだ。

【取組の具体的な内容・成果】

1 取組の概要

南薩地域振興局指宿支所農林普及課では、飼料用イネを農地集積の手段として活用し、効率的な作業受委託を支援するため、平成20年度の普及指導計画に「開闢水田受委託組合の育成」を位置付け、技術確立のための実証や地域農業者の見識を高めるための研修会の開催に取り組んだ。

2 特筆すべき取組内容

(1) 非主食用米の生産利用に向けた関係機関等による推進体制の整備、農業者等に対する意向把握

- ・集落営農作業部会にて、飼料用イネの実証や研修会に関わる検討を行った。また、地域での円滑な推進活動を進めるため、国、県の試験研究機関を交えた検討を開催した。
- ・今後の利用促進を図るためには収穫体系の確立と農家への周知が必要であった。そのため、国、県の試験研究機関と連携した研修会や汎用型飼料収穫機の実演会を開催し、地域農業者の飼料用イネの栽培や特性、高性能機械に関する見識を深めた。また、研修会においてアンケート調査を行い耕畜農家の意向を把握した。

【今後の課題、予定等】

- ・本年度は施肥の多い区で収量が増加することや生育ステージの確認、2回刈りに適した品種の選定について明確にすることができた。
- ・また、施肥量を増加しても倒伏の心配ないことも確認できたため、次年度は施肥量と収量について検討を行う必要がある。
- ・地域における受委託の手段として活用するため、直播栽培などの低コスト生産に向けた取り組みについて検討を行う必要がある。
- ・また、今後の利用促進を図るための活動については、地区の耕畜農家を対象として継続していく。